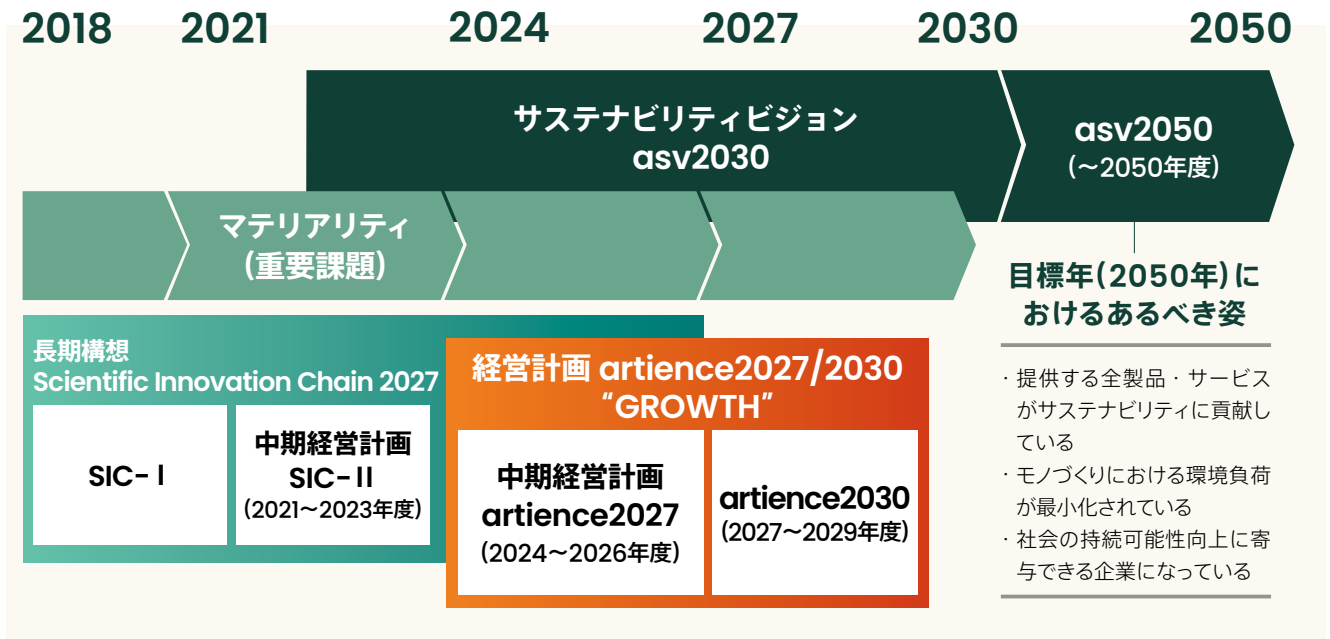


# サステナビリティビジョンasv2050/2030

サステナビリティビジョンasv2050/2030は、2050年のあるべき姿と、そのマイルストーンとしてバックキャストし2030年に達成すべき目標を定めた、実践的な長

期目標です。このビジョンを指標とし、新たな経営計画artience2027/2030“GROWTH”と連動したサステナビリティ活動を推進していきます。



## ■ サステナビリティビジョンasv2050/2030

asv2030 2050年へのマイルストーンでの中間目標 SDGs達成に向けた企業としての貢献を推進	asv2050 2050年のあるべき姿に至る方向性 カーボンニュートラル達成など	目標年(2050年)におけるあるべき姿
<b>1. 持続可能な社会を実現させる製品・サービスの提供</b>		提供する全製品・サービスがサステナビリティに貢献している
<ul style="list-style-type: none"> <li>・サステナビリティ貢献製品売上高比率80%</li> <li>・ライフサイクル視点でCO<sub>2</sub>排出削減に貢献できる製品の拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての製品をサステナビリティ貢献製品に</li> <li>・お客様の脱炭素化に貢献</li> </ul>	
<b>2. モノづくりでの環境負荷低減</b>		モノづくりにおける環境負荷が最小化されている
<ul style="list-style-type: none"> <li>・CO<sub>2</sub>排出量: 国内35%削減(2020年度比) : 海外35%削減(2030年度BAU比)</li> <li>・廃棄物外部排出量: 国内50%削減(2020年度比)</li> <li>・有害化学物質排出量: 国内30%削減(2020年度比)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産活動でのCO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロ、環境負荷を最小化</li> <li>・廃棄物の発生を最小化</li> <li>・持続可能な水利用を実現</li> </ul>	
<b>3. 信頼される企業基盤の構築</b>		社会の持続可能性向上に寄与できる企業になっている
<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境・社会調和な原材料調達の実現</li> <li>・社員の多様性の尊重、自然・地域との共生</li> <li>・絶え間ないガバナンス体制の再構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サプライチェーン、人材・地域活動、ガバナンスを環境・社会貢献の視点で継続的に改革・変革</li> </ul>	

※2022年1月にサステナビリティビジョンTSV2050/2030として策定、2024年1月改称

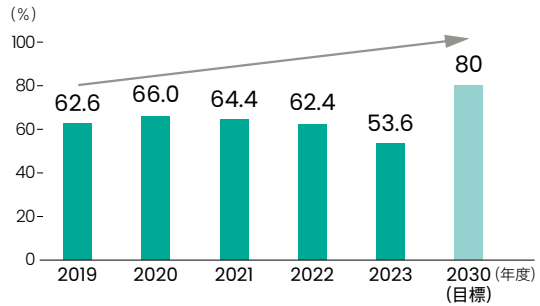
[WEB](#) 「サステナビリティビジョン」については、当社ウェブサイトに掲載しています

## すべての製品をサステナビリティ貢献製品に

artienceグループは、社会の要請やお客様のニーズに合った製品・サービスの開発・上市を推進しており、環境に配慮した製品の提供を「環境価値」、人びとの暮らしの快適さ、健康・福祉、安全・安心に寄与する製品の提供を「生活価値」とするサステナビリティ貢献製品の拡充・拡大に取り組んでいます。

サステナビリティビジョンasv2050/2030においては、2030年にサステナビリティ貢献製品売上高比率80%、2050年にすべての製品をサステナビリティ貢献製品に、を目標に掲げています。

## ■サステナビリティ貢献製品売上高比率<sup>※</sup>の推移と目標

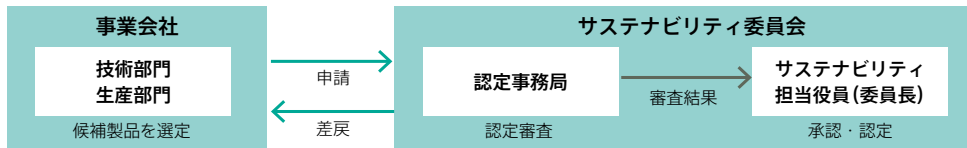


※ 2023年度から、asv2050/2030に基づくサステナビリティ貢献製品に定義変更・集計範囲の拡大(海外を含む)を行っています。2022年度までの値は旧来の環境調和型製品の売上高構成比率です

## ■サステナビリティ貢献製品の提供価値と方向性

提供価値	方向性	キーワード	取り組み・製品事例
環境価値 環境と共存する社会の実現	脱炭素	クリーンエネルギー、新エネルギー エネルギー削減、輸送のEV化	EV化加速に貢献する素材/技術の提案・先行開発(LiB材料、熱制御部材) 使用時のCO <sub>2</sub> 排出量削減に寄与(UV/EB化) 地球環境に優しい新たな発電システムの開発・素材の提案
	資源循環	リデュース リユース リサイクル 代替素材	石化原材料比率の低減・置き換え(バイオマス、水性化) 製品構成の簡素化、紙への置き換え(生分解素材、機能性コーティング) プラスチック循環を支える材料・システム展開(水平リサイクル支援素材・システム)
	自然共生	環境調和・共生・浄化 環境負荷物質の低減	遮熱塗料、保温 土壌改良、排水浄化、再生可能エネルギー活用
	カーボンリサイクル		CCUS(CO <sub>2</sub> 回収・有効活用・貯蓄)技術への挑戦、CO <sub>2</sub> 由来原材料の活用
生活価値 快適・健やか・安全な社会の実現	メディカル・ヘルスケア領域	予防・診断	疾病の早期発見・予防と罹患リスクの縮小につながる診断用材料・システムの開発
		治療	先進治療・セルフケアに貢献する医薬品・医療用素材の開発
		安全・安心	生体への影響のない、安全で安心な製品の提供(有害物質を含まない製品)
	通信・エレクトロニクス・デジタル領域	高速・大容量通信	フォトニクス・高速大容量伝送・高速演算を支える次世代素材群の開発
	高度なセンシング	センサー社会・IoTでつながる社会の実現に向けたキー素材の提供	
	ビッグデータ	データ活用による便利な社会の実現につなげる技術への挑戦	

## ■サステナビリティ貢献製品の認定制度



当社グループの製品は、環境価値・生活価値の方向性や定義、GHG排出原単位などの具体的なサステナビリティ評価項目によって審査されます。対象製品の評価が認定基準に達していれば、「サステナビリティ貢献製品」として認定されま

す。認定審査はサステナビリティ貢献製品認定事務局で行われ、サステナビリティ担当役員(委員長)が審査結果の承認および認定を行います。なお、市場や社会におけるサステナビリティ要件の変化に伴い、定期的に審査基準は見直されます。